

1. 略歴

1998年3月	東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
1998年4月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
2000年3月	同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
2000年4月	同 博士課程進学
2003年3月	同 博士課程単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2006年3月	博士 (社会学) 学位取得
2006年4月	お茶の水女子大学文教育学部 講師
2007年4月	信州大学医学部保健学科 講師
2011年5月	奈良女子大学生活環境学部生活文化学科 准教授 (～2012年3月)
2012年4月	奈良女子大学大学院生活環境科学系生活文化学領域 准教授
2018年10月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

医療社会学 ケアの社会学 認知症研究

b 研究課題

- (1) 認知症をめぐる支援・運動の展開に関する経験的・理論的研究
- (2) 東日本大震災被災地域における脆弱性の抱えた個人・世帯の経験に関する実証研究
- (3) 遺伝性疾患保因者の経験・アイデンティティ・社会関係に関する経験的・理論的研究

c 概要と自己評価

(1) に関しては、日本における当事者運動や認知症をめぐる活動の経験的調査をしつつ、障害学や医療社会学における障害の社会モデルや医療化などの枠組みを参照しながら理論的な整理をして、論文や学会報告の形で成果報告を行った (一連の研究は 2020 年度に著書として出版予定である)。(2) に関しては 2012 年度から社会福祉学の研究者等と行ってきたインタビュー調査に基づく調査をテキストマイニングなどの方法も用いながら分析し、成果を著書として刊行した。(3) に関しては、以前の患者調査を踏まえて、血友病患者の家族・親族における推定保因者に対するインタビューを患者団体とともに 2019 年度から開始し、2020 年度以降の成果報告に向けて分析を進めている。

d 主要業績

(1) 論文

井口高志、「認知症ケアにおける地域の意義——認知症の人の一貫性の維持と緩和に注目して」、『保健医療社会学論集』、29 (2)、27-34 頁、2019.2

Iguchi Takashi, “How has the new image of people with dementia emerged in Japan? : An analysis of TV documentary programs in the NHK data archives”, Nara Women's University Sociological Studies, 26, 84-98, 2019.3

井口高志、「「家族介護者支援」はなぜどのように論じられたのか?」、奈良女子大学生活文化学会編、『ジェンダーで問い直す暮らしと文化：新しい生活文化学への挑戦』敬文舎、209-244 頁、2019.3

井口高志、「ポスト診断時代における認知症の社会学の課題」、『家族研究年報』、44、23-42 頁、2019.7

(2) 学会発表

国内、井口高志、「レビー小体型認知症 (DLB) における「適切な対応」と「進行」の理解をめぐる一DLBの人の介護者と医療者との質疑応答のデータからの検討」、第 44 回保健医療社会学学会大会、2018.5.19

国内、井口高志、「認知症経験の変容と相互行為—新しい認知症ケア時代の社会学」、家族問題研究学会 2018 年度大会、2018.7.14

国内、井口高志、「認知症経験の変容と相互行為—ポスト診断時代の社会学的課題」、2018 年度第 4 回 ケアの人類学研究会、2018.9

国際、Mami Kubota, Yasuko Kato, Masami Kutsumi, Takashi Iguchi, Yasushi Morimura, The Demands and Challenges of DLB (Dementia with Lewy Bodies) Support Network Participants, 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2019.1.17

国内、井口高志、「認知症の本人の登場はいかになされ、何をもたらすのか？—認知症の人たちの「当事者宣言」が拓く課題」、第15回認知症当事者研究勉強会、2019.2.23

国内、井口高志、「認知症ケア・医療の社会的観察と実践」、第20回日本認知症ケア学会、2019.5.25

国内、井口高志、「「拡散する家族介護」への支援を考える」、第26回多文化間精神医学会、龍谷大学深草キャンパス、2019.12.1

国際、Takashi Iguchi, Dementia in Japan: how it has been understood and how this paradigm is changing, UTokyo-NTU Joint Conference, Care and Migration in Japan and Taiwan, The University of Tokyo Hongo campus, 2019.12.9

(3) その他

樋口直美・井口高志、「幻視は‘まぼろし’ではない」、「支援」編集委員会編、『支援』8、114-131頁、2018.4

井口高志、「認知症当事者本が拓くもの——2017年の著作群を中心に」、「支援」編集委員会編、『支援』8、212-224頁、2018.4

井口高志、「観察法から社会調査を考える」、奈良女子大学生生活文化学会編、『ジェンダーで問い直す暮らしと文化——新しい生活文化学への挑戦』敬文舎、307-321頁、2019.3

井口高志、「XIII 家族社会学の隣接領域 3 福祉社会学」、西野理子・米村千代編、『よくわかる家族社会学』ミネルヴァ書房、144-145頁、2019.12

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、信州大学医学部保健学科、「ヒューマンセクシュアリティ」、2018.11.8、2019.11.7

非常勤講師、奈良女子大学生生活環境学部、「家族関係論」、2019.4～2019.7

公開講座、第92回5月祭実行委員会、「認知症をめぐる諸実践の社会学」、2019.5.18

非常勤講師、関西医科大学看護学部、「家族社会学」、2019.10～2019.11

非常勤講師、九州大学文学部、「ケアの社会学」、2019.12

(2) 学会

国内、日本家族社会学会、学会誌編集委員、2016.9～2019.9

国内、日本保健医療社会学会、評議委員、2017.5～

国内、関西社会学会、学術雑誌専門委員（査読委員）、2019.10～

国内、関東社会学会、専門審査委員、2019.12～2020.3

(3) 行政

省庁、日本学術会議、科学技術政策、外部評価委員、2018.10～

自治体、東京都財務局、審査委員、2019.10～2019.11